

仮設テントハウス（移動式）

鐘ヶ江 利也・酒井 武

本稿では必要なときに、必要とするものを、手軽に利用出来る仮設テントハウスのレンタルシステムの事例紹介を以下に述べる。

現在のように、何においても変化の激しい時代にあって、過大な設備投資を抑える為にも、自社で所有するのではなく、必要なときにだけ、必要な空間を、使い勝手を最優先にして、スピーディーに使用することが出来るジャバラハウスのレンタルシステムが、今、最も適している仮設商品だと考える。

今回は、各分野で利用されている中から、仮設テントの使用例として、環境改善事業向けに現場施工されている事例を紹介する。

キーワード：テント，伸縮性，移動，環境，飛散防止，資源の再利用

1. はじめに

膜構造物製品の企画，設計，製造から販売までの一貫した活動に関して変化が見られるようになったのは，1990年頃からだったと思われる。

購入する場合とは別に，テント上屋を一時的に短期間のみで，借用して利用したいというニーズが次第に増えるようになってきたのである。

使用目的について調査を進めるなかで集約していくと，その当時は，製品の出荷までの一時的な保管庫としての利用が多くて，「雨から製品を守りたい」「埃から商品を守りたい」，「太陽からの直射日光を防ぎたい」，「長尺物を段取りよく保管したい」，「重量物を格納しておきたい」などからメンテナンス用上屋としての利用や，海外からの輸入品に対しての一般的なストックヤードとしての利用等がその大部分を占めていた。

2. 利用分野の変化

2000年を迎えた頃より，使用方法や使用分野に変化が見られるようになり，今まで利用されていた業界の他に，環境に関連する分野及び，土壌に関連する分野における利用例が目に見えて増加してきた。

その使われ方としては，文化財保護に関連しての埋設文化財の発掘調査向けとして，発掘する現場をテントで覆うことによって，雨や風や雲による作業の延期を防止出来るようになり，計画期日内に調査を終える

ことが出来て，その後の開発工事等の中断の防止に向けての効率的で，確実な発掘調査が出来るようになったのである。

その他，現場での使われ方としては，ガソリンスタンドの跡地，工場跡地，施設跡地，焼却施設関連埋設農薬の処理，改良土の置場，処分土の搬出場，テント利用のバイオ処理，水処理場上屋，臭気防止用上屋などの現場での使用が著しく増加してきたのである。

今回は，各現場で，使用されている事例，対応例を紹介する。

3. 各現場での使用事例

- ①テントを間仕切り膜で分割することで，掘削作業エリアとダンプ積み込みエリアを1つのテント内で行うことが出来た。テントを2棟使用するよりもコスト・設置作業効率で低減することが出来る。



写真—1 間仕切り膜取付状況



写真一 2 間仕切り膜取付状況

②ジャバラハウステントを足場等で嵩上げすることで、大きな重機もテント内で使用できるようにした。多様な応用に対応できるのはジャバラハウスが軽量かつ簡易な構造である為である。



写真一 3 テント嵩上げ状況



写真一 4 テント嵩上げ状況

③1つのテントを移動しながら作業を行うことで作業エリアを有効に活用することが出来る。次の作業にすぐにかかることが可能になる。



写真一 5 テント移動状況



写真一 6 テント移動状況

④テントと集塵機を組み合わせることで、テント内の作業環境を管理することが出来る。



写真一 7 集塵機設置状況

4. まとめ

今後、仮設ジャバラハウステントは環境対策工事の現場で防塵用テントとしての役割が必要になってくると思われる。その為には、広く業界からの要望を的確にすくいあげ、理解し応えていくことがテントの価値を高めていけると思いたい。

J C M A

[筆者紹介]

鐘ヶ江 利也 (かねがえ としや)
㈱デポレント
東京営業部



酒井 武 (さかい たけし)
㈱デポレント
営業部

